

学内での活動

1 授業

次の各授業を担当した。メディア表現基礎 3、メディア表現基礎 4、制作基礎（情報工学）、情報工学演習、プロジェクト実習（福祉の技術プロジェクト、体験拡張表現プロジェクト、場所・感覚・メディア）、特別研究。一部授業の概要を以下に記す。

1.1 プロジェクト実習：福祉の技術プロジェクト（分担）

履修生の活動についての助言や、研究補助員が開発する教材補助装置についての意見交換、支援学校での実践が活動の中心であった。昨年度から大垣特別支援学校と共同で開発・検証している AR アプリ（廊下等での出会い頭の衝突を体験できるもの）は、継続して開発している。コロナ禍をきっかけに開始した「気軽に情報交換できる場所」も、昨年に引き続きほぼ毎週オンライン形式で開催、参加した。オープンハウスでは履修生の取り組みや研究補助員の活動などを展示した。



1.2 プロジェクト実習：場所・感覚・メディア（分担）

プロジェクトとしては 2 年目、自身は初めて参加した。自身の知見を広められることや、自身の活動を異なった視点から俯瞰できることを期待している。フィールドワークや参考書籍の輪読、作品（映画等）の鑑賞、学外での展示に加え、丁寧なディスカッションから構成された。自身は、大きく「生存」の視点から、農地での草取り体験の実施、および、「技術がもたらす大きな変革」という視点での講義を行なった。特に、授業で鑑賞した映画とも連携させ、情報技術の進化を足がかりに医療技術が飛躍的に高度化し、「ヒトという種が進化」という予測までを射程に入れた、近未来を題材とした。



学外での活動・個人の活動

下に記す活動は、持続的かつサービスの奴隷にならないという観点で整理できよう。また、これまでの農的な活動も継続している。

1 家族の介護に関する活動

家族の運動機能低下による要望を受け、以下の対策を行った。

- ・ 出入口や室内の段差、トイレに手すりを設置した。材料はこれまでに入手、保管してあったものを工夫して再利用した。
- ・ 歩行補助具を製作した。「手作りの方が頑張れる」という要望から、手持ちの木材や車輪を使い、椅子型の補助具を製作した。

2 その他の活動

- ・ 地域の福祉委員（会計担当）
- ・ 補助金 書面審査業務